

第 60 回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表	1 ページ
計算書類の個別注記表	18 ページ

「連結計算書類の連結注記表」および「計算書類の個別注記表」につきましては、法令および当社定款第 16 条の規定に基づき、当社ホームページ (<https://www.secom.co.jp/corporate/ir/>) に掲載することにより、株主の皆様提供しております。

セコム株式会社

連結注記表

連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 165 社

主要会社名 セコム上信越㈱、㈱アサヒセキュリティ、能美防災㈱、ニッタン㈱、セコム医療システム㈱、セコム損害保険㈱、㈱パスコ、セコムトラストシステムズ㈱、㈱アット東京、㈱TMJ、ウェステック・セキュリティ・グループ Inc.、セコム PLC

(2) 非連結子会社

永信電子㈱、㈱共同設備他 5 社

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社 7 社は、いずれも小規模であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないためであります。

(3) 他の会社等の議決権の過半数を所有しているにもかかわらず子会社としなかった当該他の会社の名称

Katzkin Holdings, LLC, United Tactical Systems Holdings, LLC, CLP Legal Services, LLC, CLP Landscape Services, LLC, PF Holdco, LLC, Austin Fitness Holdings, LLC, Handel's Holdco, LLC, CLP ICS Holdings, LLC, Genea Energy Partners, Inc.

(子会社としなかった理由)

ウェステック・セキュリティ・グループ Inc. の子会社が営業取引として投資育成目的で取得したものであり、傘下に入れる目的ではないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用関連会社の数 16 社

主要会社名 ㈱エスワン、東洋テック㈱、台湾ンセコム Co., Ltd. (英文商号)

(2) 持分法非適用関連会社の数 8 社

(持分法を適用しない理由)

持分法非適用関連会社 8 社は、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等に及ぼす影響がいずれも軽微であり、かつ全体としても重要性がないので持分法を適用しておりません。

3. 連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結 (新規) 5 社 ADT SERVICES (M) SDN. BHD. 他 4 社…… (株式取得)

(除外) 6 社 セコムホームライフ㈱他 2 社 …… (株式売却)

ニッタン電子㈱…… (吸収合併)

㈱くらしテル他 1 社…… (会社清算)

持分法 異動なし

4. 連結子会社及び持分法適用関連会社の決算日等に関する事項

在外連結子会社のうち、ウェステック・セキュリティ・グループ Inc. 他の米国 6 社、セコムオーストラリア Pty., Ltd. 他 8 社、セコムベトナムセキュリティサービス・ジョイントストックカンパニー他のベトナム 6 社、セコムシンガポール Pte. Ltd.、セコムメディカルシステム (シンガポール) Pte. Ltd.、ディガードセキュリティ Pte. Ltd.、タクシャシーラ ホスピタルズ オペレーティング Pvt. Ltd.、タクシャシーラ ヘルスケア アンド リサーチ サービス Pvt. Ltd.、PT. ヌサンタラ セコム インフォテック、PT. セコムインドネシア、PT. セコムバヤンカラ、PT. セコムリアルティ インドネシア、パスコタイ Co., Ltd.、タイセコムセキュリティ Co., Ltd.、パスコ フィリピン Corp.、台湾能美防災 (股)、PASCO DO BRASIL CONSULTORIA TECNICA LTDA.、TMJP BPO SERVICES, INC.、セコムアクティブギョベンリックヤトルム A. S. およびセコムアクティブエレクトロニックギョベンリックチョズムレリ A. S. の決算日は 12 月 31 日であり、連結計算書類の作成にあたっては、当該決算日に係る計算書類を使用しております。また、ADT SERVICES (M) SDN. BHD.、ADT INTEGRATED SECURITY SOLUTIONS PTE. LTD. の決算日は 9 月 30 日であり、連結計算書類の作成にあたっては、12 月 31 日で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。なお、ADT Alarm Monitoring Hong Kong Limited の決算日は 9 月 30 日であり、連結計算書類の作成にあたっては、3 月 31 日で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

国内連結子会社のうち、㈱蔵王アーバンプロパティーズの決算日は 12 月 31 日であり、連結計算書類の作成にあたっては、3 月 31 日で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

持分法適用関連会社のうち、㈱エスワン、台湾ンセコム Co., Ltd. 他 6 社の決算日は 12 月 31 日であり、連結計算書類の作成にあたっては、当該決算日に係る計算書類を使用しております。また、㈱コアツの決算日は 9 月 30 日であり、連結計算書類の作成にあたっては、3 月 31 日で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。その他の連結子会社および持分法適用関連会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

5. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

- ①有価証券
- イ. 満期保有目的債券…償却原価法によっております。
 - ロ. その他有価証券
時価のあるもの
株式及び受益証券…期末日前1ヶ月の市場価格等の平均に基づく時価法によっております。
それ以外……………期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。
なお、評価差額は主として全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算出しております。
時価のないもの
主として移動平均法による原価法によっております。
- ②デリバティブ 時価法によっております。
- ③たな卸資産 主として移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。
- ④販売用不動産 個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

- ①有形固定資産（リース資産を除く）
- イ. 警報機器及び設備
定率法により、平均見積使用期間（5～8年）にわたり償却しております。
 - ロ. それ以外の有形固定資産
定額法によっております。
主な耐用年数は以下のとおりであります。
建物 33～50年
工具器具備品 2～20年
- ②無形固定資産（リース資産を除く）
定額法によっております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
- ③リース資産
- イ. 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。
 - ロ. 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。
なお、2008年3月31日以前に契約した所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- ④長期前払費用 定額法によっております。
なお、警備契約先における機器設置工事費のうち、契約先からの受取額を超える部分は「長期前払費用」として処理し、契約期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

- ①貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ②賞与引当金 従業員に対する賞与の支給に備え、支給見込額のうち当連結会計年度に負担する金額を計上しております。
- ③工事損失引当金 受注工事等に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における未引渡工事等の損失見込額を計上しております。

④役員退職慰労引当金 国内連結子会社においては、役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規則に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4)重要な収益及び費用の計上基準

①完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

②ファイナンス・リース取引に係る収益及び費用の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

(5) その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

①重要なヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

主として繰延ヘッジ処理によっております。なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合には特例処理によっております。

ロ. ヘッジ手段と対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
金利スワップ	借入金

ハ. ヘッジ方針

主として当社のリスク管理方針に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。

ニ. ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、特例処理の要件に該当すると判定される場合には、有効性の判定は省略しております。

②退職給付に係る会計処理の方法

当社および国内連結子会社においては、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を退職給付に係る資産および退職給付に係る負債として計上しております。

過去勤務費用は、発生年度に全額損益処理しております。

数理計算上の差異は、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生翌連結会計年度から損益処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

③のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、5年から20年間で均等償却しております。

④消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

6. 表示方法の変更

（「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用に伴う変更）

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当連結会計年度から適用し、連結注記表に会計上の見積りに関する注記を記載しております。

7. 会計上の見積りに関する注記

(1) 貸倒引当金

① 連結計算書類に計上した金額

当連結会計年度の連結貸借対照表において、短期貸付金 3,053 百万円、長期貸付金 33,301 百万円、流動資産の貸倒引当金 1,715 百万円、固定資産の貸倒引当金 13,538 百万円を計上しております。

② その他見積りの内容に関する理解に資する情報

「連結注記表 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等 5 (3) ① 貸倒引当金」に記載のとおり、売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を貸倒引当金として計上しております。

貸付金のうち、個別に回収可能性を検討する必要がある特定の貸付金の識別に当たっては、債務の弁済の延滞状況のほか、財務内容、過去の経営成績及び将来の事業計画を考慮しております。

このうち将来の事業計画は、将来の予測不能な事業上の前提条件の変化による影響を受けるため、不確実性を伴います。

また、識別した特定の貸付金に対する回収不能見込額の見積りは、財務内容及び将来の事業計画を基礎として見積りますが、将来の予測不能な事業上の前提条件の変化による影響が適切に考慮されているか否かを含め、その事業計画において策定した将来の収益及び費用の計画が実現可能であるか否かについて、経営者による重要な判断が伴います。

(2) のれん及びその他無形資産

① 連結計算書類に計上した金額

当連結会計年度の連結貸借対照表において、のれん 65,604 百万円、その他の無形固定資産 31,789 百万円を計上しております。

② その他見積りの内容に関する理解に資する情報

のれん及びその他の無形固定資産は規則的に償却しておりますが、これらの無形固定資産を含む資産グループに減損の兆候があると認められる場合には、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定する必要があります。また、判定の結果、減損損失の認識が必要と判定された場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、その帳簿価額の減少額を減損損失として計上しております。

減損の兆候には、営業活動から生ずる損益等が継続してマイナスとなっている場合のほか、事業に関連する経営環境の著しい悪化が生じた場合、あるいはそのような見込みがある場合等が含まれます。

のれん及びその他の無形固定資産の帳簿価額には、各連結子会社の買収時点における将来の事業の成長見込みに基づいた超過収益力や顧客基盤の価値等を反映しております。このため、これらの無形固定資産を含む資産グループが使用されている営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなっていない場合であっても、各連結子会社の買収時点で見込まれていた事業の成長が達成されない場合や事業計画の前提となった経営環境に著しい悪化が認められた場合、あるいはそのような見込みがある場合には、減損の兆候があると認められ、減損損失の認識の判定が必要となる可能性があります。

追加情報

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社グループは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が少なくとも一定期間続くとの仮定を用いて固定資産の減損会計および貸倒引当金等の会計上の見積りを行っており、現時点において連結計算書類に重要な影響を与えるものではないと判断しております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多いことから、翌連結会計年度以降の当社グループの財政状態、経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

連結貸借対照表に関する注記

1. 現金及び預金、投資その他の資産「その他」
連結子会社において、投資有価証券の譲渡契約に係る条項により、現金及び預金のうち340百万円、投資その他の資産「その他」のうち10百万円について使用が制限されております。
2. 現金護送業務用現金及び預金、短期借入金、現金護送業務用預り金
当社グループの現金護送業務の中には、銀行等の金融機関が設置している自動現金受払機の現金補填業務、現金回収管理業務および現金集配金業務があります。現金護送業務用現金及び預金残高には、現金補填業務に関連した現金及び預金残高20,261百万円が含まれており、当社グループによる使用が制限されております。なお、短期借入金残高には、当該業務に関連した資金調達額2,767百万円が含まれております。
現金回収管理業務に関連した現金残高19,314百万円が現金護送業務用現金及び預金残高に含まれており、当社グループによる使用が制限されております。なお、当該業務に関連した資金調達額16,749百万円が短期借入金残高に含まれております。
現金集配金業務に関連した現金及び預金残高99,313百万円が現金護送業務用現金及び預金残高に、同じく現金集配金業務に関連した預り金残高99,295百万円が現金護送業務用預り金残高に含まれており、当社グループによる使用が制限されております。

3. 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

現金及び預金(定期預金)	1,356	百万円
短期貸付金	35	
その他の流動資産(未収入金)	707	
建物及び構築物	18,664	
土地	23,980	
その他の無形固定資産(借地権)	818	
投資有価証券	1,579	
長期貸付金	594	
合 計	47,737	

(2) 担保に係る債務

短期借入金	1,201	百万円
1年内償還予定の社債	398	
社債	3,878	
長期借入金	7,608	
合 計	13,087	

上記債務のほか、短期貸付金、投資有価証券および長期貸付金は、関係会社等の債務に対して、担保に供しております。

4. 仕掛販売用不動産の保有目的の変更
仕掛販売用不動産5,279百万円については、保有目的の変更により有形固定資産の建物及び構築物、土地に振り替えております。
5. 有形固定資産の減価償却累計額 539,317 百万円
6. 非連結子会社及び関連会社の株式の額
(固定資産)
投資有価証券(株式) 58,761 百万円
7. 偶発債務
法人および個人の借入金等に対する債務保証 371 百万円

連結損益計算書に関する注記

1. 売上原価に含まれる販売用不動産評価損 20 百万円
2. 特別損失ののれん償却額
「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」（日本公認会計士協会、最終改正2018年2月16日、会計制度委員会報告第7号）第32項の規定に基づき、のれんを償却したものであります。

連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

(単位：株)

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	233,293,998	1,928	—	233,295,926
自己株式				
普通株式	15,033,588	977	—	15,034,565

(変動事由の概要)

普通株式の発行済株式の増加数1,928株は、譲渡制限付株式の発行による増加であります。
普通株式の自己株式の増加数977株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

- (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年6月25日 定時株主総会	普通株式	18,552	85	2020年3月31日	2020年6月26日
2020年11月9日 取締役会	普通株式	18,552	85	2020年9月30日	2020年12月7日

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの
次のとおり、決議を予定しております。

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	18,552	85	2021年3月31日	2021年6月28日

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループ（保険事業を除く）では、「社会システム産業」の構築に向けて、必要な資金を市場調達および金融機関からの借入等により、調達しております。また、事業推進および資金運用の目的で、金融商品を保有しております。デリバティブは、主として借入金等の市場リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

当社グループの保険事業では、保険引受により保険契約者から収入した保険料を将来の保険金支払原資として安全確実に保管・運用することを目的として金融商品を利用した資産運用を行っております。投資を行っている金融商品は、金利変動等の市場リスクを負っているため、当該リスクによる不利な影響が生じないように、資産および負債の総合的管理（ALM）を行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）をご参照ください。

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
			(単位：百万円)
(1) 現金及び預金	499,247	499,247	-
(2) 現金護送業務用現金及び預金	138,889	138,889	-
(3) 受取手形及び売掛金	132,886	132,886	-
(4) 未収契約料	39,980	39,980	-
(5) 有価証券及び投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	11,853	13,194	1,340
② 関係会社株式	48,834	126,842	78,007
③ その他有価証券	209,989	209,989	-
(6) リース債権及びリース投資資産	41,511	41,498	△ 13
(7) 短期貸付金	3,053		
貸倒引当金	-		
	3,053	3,053	-
(8) 長期貸付金	33,301		
貸倒引当金(※1)	△ 12,828		
	20,473	20,525	52
(9) 敷金及び保証金	16,458	16,392	△ 65
資産計	1,163,180	1,242,501	79,320
(1) 支払手形及び買掛金	42,858	42,858	-
(2) 短期借入金	33,806	33,806	-
(3) 未払金	42,215	42,215	-
(4) 未払法人税等	23,440	23,440	-
(5) 現金護送業務用預り金	119,334	119,334	-
(6) 社債	4,338	4,338	△ 0
(7) 長期借入金	10,444	10,442	△ 1
(8) 長期預り保証金	4,102	4,104	1
負債計	280,541	280,540	△ 0
デリバティブ取引(※2)			
① ヘッジ会計が適用されていないもの	-	-	-
② ヘッジ会計が適用されているもの	-	(0)	△ 0
デリバティブ取引計	-	(0)	△ 0

(※1) 貸付金に対応する貸倒引当金を控除しております。

(※2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 現金護送業務用現金及び預金、(3) 受取手形及び売掛金、(4) 未収契約料、並びに
(7) 短期貸付金

これらは主に短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、債券等は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

- (6) リース債権及びリース投資資産

元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

- (8) 長期貸付金

貸付金の種類および内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、見積キャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保および保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。なお、一部の連結子会社では、将来キャッシュ・フローを残存期間に応じ、国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

- (9) 敷金及び保証金

将来のキャッシュ・フローを無リスクの利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等、並びに

- (5) 現金護送業務用預り金

これらは主に短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (6) 社債

元利金の合計額を当該社債の残存期間に応じて新規に同様の社債を発行した場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

- (7) 長期借入金

元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

- (8) 長期預り保証金

将来のキャッシュ・フローを無リスクの利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

契約を締結している金融機関から提示された価格によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

主 な 内 容	連結貸借対照表計上額
非上場株式(※1)	4,326
非上場関係会社株式(※1)	9,927
投資事業有限責任組合等への出資(※1)	8,771
営業預り保証金(※2)	26,592

(※1) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(※2) 市場価格がなく、かつ実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積もることが極めて困難と認められるため、「(8)長期預り保証金」には含めておりません。

賃貸等不動産に関する注記

当社および一部の連結子会社では、東京都などの全国主要都市を中心に、賃貸オフィスビル、病院等の医療施設の他、賃貸住宅等を所有しております。

これら賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額および時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額			当連結会計年度末の時価
	当連結会計年度期首 残高	当連結会計年度 増減額	当連結会計年度末 残高	
オフィスビル	41,592	2,427	44,020	80,412
医療施設	54,285	△ 1,548	52,737	62,428
その他	8,424	4,313	12,738	14,120
合計	104,302	5,193	109,495	156,961

(注1) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

(注2) その他の当連結会計年度増減額のうち、主な増加額は、保有目的の変更による仕掛販売用不動産からの振替 5,279 百万円であります。

(注3) 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額、その他の物件については主に「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額であります。ただし、第三者からの取得時や直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。

また、賃貸等不動産に関する 2021 年 3 月期における損益は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	賃貸収益	賃貸費用	差額	その他 (売却損益等)
オフィスビル	3,583	1,542	2,040	△ 23
医療施設	6,960	3,323	3,636	-
その他	457	214	242	97
合計	11,001	5,081	5,920	73

(注1) 賃貸費用には、減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等が含まれております。

(注2) その他は、特別利益に計上されている「固定資産売却益」等であります。

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	13,822	百万円
保険契約に備える負債	6,435	
退職給付に係る負債	6,021	
未実現利益消去	5,654	
賞与引当金	5,035	
貸倒引当金	4,970	
減損		
子会社の連結開始時の時価評価による簿価修正額（土地・建物）	4,767	
固定資産評価損	4,695	
繰越欠損金	2,500	
その他	14,254	
繰延税金資産小計	68,159	
繰延税金負債小計	△ 15,791	(注)
繰延税金資産合計	52,367	

繰延税金負債	△ 11,836	百万円
退職給付に係る資産	△ 8,491	
その他の有価証券評価差額金	△ 7,372	
子会社の連結開始時の時価評価による簿価修正額（無形固定資産）	△ 4,917	
子会社の連結開始時の時価評価による簿価修正額（土地・建物）	△ 960	
子会社の連結開始時の時価評価による簿価修正額（その他固定資産）	△ 1,017	
その他	△ 34,596	
繰延税金負債合計	△ 34,596	
繰延税金資産の純額	17,771	

(注) 評価性引当額が 2,682 百万円減少しております。この減少の主な内容は、連結子会社において、税務上の繰越欠損金に関する評価性引当額が 2,253 百万円減少したことに伴うものであります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

連結計算書類提出会社の法定実効税率	30.5 %
(調整)	
のれん償却額	2.7
持分法投資利益	△ 1.5
法人住民税の均等割	0.8
税務上の繰越欠損金の利用	△ 0.8
研究開発税制	△ 0.8
連結子会社との税率差異	0.6
関係会社株式売却損益の修正	0.6
評価性引当額の増減	0.5
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4
その他	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	33.3 %

退職給付に関する注記

1. 採用している退職給付制度の概要

当社および国内連結子会社の従業員は、通常、退職時に退職一時金または年金の受給資格を有しております。当社および当社と同一の退職給付制度を有する国内連結子会社においては、退職金制度と確定拠出型年金制度を採用しており、2012年7月より加入者掛金拠出制度を導入しております。退職金制度における退職金算定方法は、年収の一定率を毎年累積した額に10年国債応募者利回り3年平均の利息を付与するものです。また、確定拠出型年金制度は、2003年4月に退職金制度の過去の積立分を含めた20%相当を移行したものであり、年収の一定率を拠出しております。なお、退職金制度の累積額と確定拠出型年金制度への拠出額の割合は、2005年4月に、退職金制度の一部について追加的に確定拠出型年金制度に移行しており、当該割合は過去の積立分も含めて70%：30%に変更しております。海外連結子会社の大部分については、実質的に全従業員を対象とする各種の退職金制度を採用しており、その多くが確定拠出型年金制度となっております。なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度および退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

退職給付債務の期首残高	99,762	百万円
勤務費用	5,825	
利息費用	385	
数理計算上の差異の発生額	3,184	
退職給付の支払額	△ 4,929	
退職給付債務の期末残高	104,227	

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

年金資産の期首残高	111,355	百万円
期待運用収益	3,140	
数理計算上の差異の発生額	8,956	
事業主からの拠出額	5,300	
退職給付の支払額	△ 3,990	
年金資産の期末残高	124,762	

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	3,513	百万円
退職給付費用	543	
退職給付の支払額	△ 256	
制度への拠出額	△ 134	
連結除外に伴う減少額	△ 581	
その他	17	
退職給付に係る負債の期末残高	3,102	

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	89,445	百万円
年金資産	△ 127,387	
	△ 37,941	
非積立型制度の退職給付債務	20,507	
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△ 17,433	
退職給付に係る負債	22,098	百万円
退職給付に係る資産	△ 39,532	
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△ 17,433	

（注）簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用		5,825	百万円
利息費用		385	
期待運用収益	△	3,140	
数理計算上の差異の費用処理額	△	415	
簡便法で計算した退職給付費用		543	
確定給付制度に係る退職給付費用		3,197	

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識数理計算上の差異	△	6,690	百万円
合計	△	6,690	

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	主として	0.4 %
長期期待運用収益率	主として	3.0 %

3. 確定拠出制度

当社および連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、2,275百万円であります。

資産除去債務に関する注記

1. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

連結貸借対照表に計上している資産除去債務については、重要性が乏しいため記載を省略しております。

2. 資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上していないもの

連結子会社の一部の建物は、建物賃貸借契約上、賃貸契約が終了し建物を返還する際に原状回復が求められておりますが、事業戦略上、同建物からの移転の予定はなく、契約の更新により同建物の取壊しまでの使用を前提としております。取壊しの場合には、原則として原状回復を行うことなく建物の取壊しを行う予定であるため、資産除去債務の履行は想定されておられません。このため、決算日現在入手可能な証拠を勘案し最善の見積りを行ないましたが、資産除去債務の範囲および金額に対する蓋然性の予測が困難であるため、当該債務について、資産除去債務を計上していません。

企業結合に関する注記

取得による企業結合

1 ADT SERVICES (M) SDN. BHD.

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 : ADT SERVICES (M) SDN. BHD.

事業の内容 : 機械警備事業

② 企業結合を行った主な理由

ADT SERVICES (M) SDN. BHD. は、マレーシアにおいて家庭や中小規模の法人を中心に、銀行や政府系機関、大企業など幅広い分野に最先端のセキュリティシステムを提供し、個人・家庭・法人に対して安全と安心を提供しています。セコムグループ各社と新たに子会社化する同社とのシナジーにより、海外における業容拡大を一層加速させ、企業価値の向上を目指します。

③ 企業結合日

2020年9月1日

④ 企業結合の法的形式

株式取得

⑤ 結合後企業の名称

ADT SERVICES (M) SDN. BHD.

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価とする株式取得により、議決権の100%を取得したためであります。

(2) 連結計算書類に含まれる被取得企業の業績の期間

2020年10月1日から2020年12月31日

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	5,113百万円
取得原価		5,113百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 15百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん

4,475百万円

② 発生原因

将来期待される超過収益力から発生したものであります。

③ 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

なお、当該のれんについては、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」（日本公認会計士協会、最終改正2018年2月16日、会計制度委員会報告第7号）第32項の規定に基づき、のれんの一部をのれん償却額として特別損失に計上しております。

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	665百万円
固定資産	94
資産合計	759
流動負債	105
固定負債	15
負債合計	121

2 ADT INTEGRATED SECURITY SOLUTIONS PTE. LTD.

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 : ADT INTEGRATED SECURITY SOLUTIONS PTE. LTD.

事業の内容 : 機械警備事業

② 企業結合を行った主な理由

ADT INTEGRATED SECURITY SOLUTIONS PTE. LTD. は、シンガポールにおいて家庭や中小規模の法人を中心に、銀行や政府系機関、大企業など幅広い分野に最先端のセキュリティシステムを提供し、個人・家庭・法人に対して安全と安心を提供しています。セコムグループ各社と新たに子会社化する同社とのシナジーにより、海外における業容拡大を一層加速させ、企業価値の向上を目指します。

③ 企業結合日

2020年10月1日

④ 企業結合の法的形式

株式取得

⑤ 結合後企業の名称

ADT INTEGRATED SECURITY SOLUTIONS PTE. LTD.

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価とする株式取得により、議決権の100%を取得したためであります。

(2) 連結計算書類に含まれる被取得企業の業績の期間

みなし取得日を2020年12月31日としており、かつ連結決算日との差異が3ヶ月を超えないことから当連結会計期間においては貸借対照表のみを連結しており、被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,717百万円
取得原価		1,717百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 11百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん

1,567百万円

② 発生原因

将来期待される超過収益力から発生したものであります。

③ 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

なお、当該のれんについては、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」（日本公認会計士協会、最終改正2018年2月16日、会計制度委員会報告第7号）第32項の規定に基づき、のれんの一部をのれん償却額として特別損失に計上しております。

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	216百万円
固定資産	29
資産合計	245
流動負債	95
負債合計	95

3 ADT Alarm Monitoring Hong Kong Limited

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 : ADT Alarm Monitoring Hong Kong Limited

事業の内容 : 機械警備事業

② 企業結合を行った主な理由

ADT Alarm Monitoring Hong Kong Limitedは、香港において家庭や中小規模の法人、大企業など幅広い分野に最先端のセキュリティシステムを提供し、個人・家庭・法人に対して安全と安心を提供しています。セコムグループ各社と新たに子会社化する同社とのシナジーにより、海外における業容拡大を一層加速させ、企業価値の向上を目指します。

③ 企業結合日

2021年2月5日

④ 企業結合の法的形式

株式取得

⑤ 結合後企業の名称

ADT Alarm Monitoring Hong Kong Limited

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価とする株式取得により、議決権の100%を取得したためであります。

(2) 連結計算書類に含まれる被取得企業の業績の期間

2021年3月31日をみなし取得日としており、当連結会計期間においては貸借対照表のみを連結しているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金(未払金を含む)	1,377百万円
取得原価		1,377百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 24百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん

1,263百万円

② 発生原因

将来期待される超過収益力から発生したものであります。

③ 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

なお、当該のれんについては、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」（日本公認会計士協会、最終改正2018年2月16日、会計制度委員会報告第7号）第32項の規定に基づき、のれんの一部をのれん償却額として特別損失に計上しております。

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	225百万円
資産合計	225
流動負債	111
負債合計	111

事業分離

当社は、2020年12月22日に、当社の連結子会社であるセコムホームライフ株式会社（以下、「セコムホームライフ」といいます。）の発行済株式の全てを穴吹興産株式会社に譲渡いたしました。

また、本株式譲渡に伴い、セコムホームライフ及びセコムホームライフの子会社であるホームライフ管理株式会社（以下、「ホームライフ管理」といいます。）を当社の連結子会社から除外しております。

1 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

穴吹興産株式会社

(2) 分離した事業の内容

子会社の名称：セコムホームライフ株式会社

事業の内容：マンションの開発・分譲・仲介・リノベーション

(3) 事業分離を行った主な理由

当社は、生活の土台となる「衣・食・住」の「住」の環境についても安全・安心を追求したいという考えのもと、1997年の株式会社エクレール（現在のセコムホームライフ）のグループ入り以降、セコムグループのネットワークを生かし、安全・安心を最優先に考えたマンションの開発・提供を行ってまいりました。また、セコムホームライフの子会社であるホームライフ管理の提供するセコムクオリティのマンション・ビル管理業務を通し、一貫して「住」環境における安全・安心を提供してきました。

今般、しかるべき不動産事業会社へ事業の譲渡を行うことがセコムホームライフ及びホームライフ管理のさらなる発展のために最良の選択であると判断するに至り、穴吹興産株式会社へのセコムホームライフの全株式の譲渡を決定いたしました。

(4) 事業分離日

2020年12月22日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

関係会社株式売却損 2,767百万円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産 26,747百万円

固定資産 1,648百万円

資産合計 28,395百万円

流動負債 23,511百万円

固定負債 644百万円

負債合計 24,156百万円

(3) 会計処理

当該譲渡株式の連結上の帳簿価額と譲渡価額との差額を関係会社株式売却損として特別損失に計上しております。

3 分離した事業が含まれていた報告セグメント

報告セグメントには含まれず、「不動産・その他」に区分しております。

4 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高 13,129百万円

営業利益 327百万円

1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額	4,958円 18銭
1 株当たり当期純利益	342円 17銭

個 別 注 記 表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 満期保有目的債券

償却原価法によっております。

② 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

③ その他有価証券

時価のあるもの

株式及び受益証券………期末日前1ヶ月の市場価格等の平均に基づく時価法によっております。

それ以外………期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。

なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法または償却原価法によっております。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商 品・貯蔵品

移動平均法に基づく原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

① 警報機器及び設備

定率法により、平均見積使用期間（5～8年）にわたり償却しております。

② それ以外の有形固定資産

定額法によっております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	33～50年
----	--------

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

① 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

② 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、2008年3月31日以前に契約した所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) 長期前払費用

定額法によっております。

なお、警備契約先における機器設置工事費のうち、契約先からの受取額を超える部分は「長期前払費用」として処理し、契約期間（5年）に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備え、支給見込額のうち当事業年度に負担する金額を計上しております。

(3)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を退職給付引当金および前払年金費用として計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用は、発生年度に全額損益処理しております。

数理計算上の差異は、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により、発生の翌事業年度から損益処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1)退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

(2)消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

表示方法の変更に関する注記

（「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用に伴う変更）

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当事業年度から適用し、個別注記表に会計上の見積りに関する注記を記載しております。

会計上の見積りに関する注記

1. 関係会社株式

(1)計算書類に計上した金額

当事業年度の貸借対照表に計上されている関係会社株式356,243百万円には、買取によって取得した非上場の子会社に対する投資に係る分が含まれております。

(2)その他見積りの内容に関する理解に資する情報

非上場の子会社に対する投資等によって取得した市場価格のない株式は、取得原価をもって貸借対照表価額としておりますが、当該株式の発行会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下したときには、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて、評価損の認識が必要となります。

また、投資先の会社の超過収益力等を反映して、計算書類から得られる1株当たりの純資産額に比べて相当高い価額で当該投資先の会社の株式を取得した場合において、その後に超過収益力等が減少したために実質価額が著しく低下したときには、当該投資先の会社の財政状態の悪化がないとしても、当該投資先の会社に対する投資について評価損の認識が必要となります。

買取によって取得した非上場の子会社に対する投資に係る株式の取得原価には、各子会社の買取時点における将来の事業の成長見込みに基づいた超過収益力や顧客基盤の価値等が反映されております。このため、各子会社の財政状態が買取以降において悪化していない場合であっても、買取時に見込まれていた事業の成長が達成されない場合や事業計画の前提となった経営環境に著しい悪化が認められた場合、あるいはそのような見込みがある場合など、超過収益力等が毀損したときには、各子会社に対する投資について評価損の認識が必要となる可能性があります。

貸借対照表に関する注記

1. 現金護送業務用現金及び預金、短期借入金

当社の現金護送業務の中には、銀行等の金融機関が設置している自動現金受払機の現金補填業務及び現金回収管理業務があります。

現金護送業務用現金及び預金残高には、現金補填業務に関連した現金及び預金残高17,981百万円が含まれており、当社による使用が制限されております。なお、短期借入金残高には、当該業務に関連した資金調達額2,767百万円が含まれております。

また、現金護送業務用現金及び預金残高には、現金回収管理業務に関連した現金残高19,292百万円が含まれており、当社による使用が制限されております。なお、短期借入金残高には、当該業務に関連した資金調達額16,749百万円が含まれております。

2. 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産

短期貸付金	35 百万円
投資有価証券	1,358
関係会社株式	45
長期貸付金	594
合 計	2,033

担保に係る債務

—

短期貸付金、投資有価証券、関係会社株式及び長期貸付金は、関係会社等の債務に対して担保に供しております。

3. 資産に係る減価償却累計額

有形固定資産の減価償却累計額 301,865 百万円

4. 偶発債務

(1) 債務保証

下記の法人、従業員の借入金等について債務保証を行っております。

(株)アライブメディケア	1,125 百万円
セコムアクティブギューベン リックヤトゥルム A.S.	774
セコムフォートウエスト(株)	238
販売した不動産の購入者	201
従業員	191
リース等による商品の購入者	34
その他	10
合 計	2,575

(2) 保証類似行為

セコム損害保険(株)との間で、同社の純資産額が一定水準を下回った場合、または債務の支払いに必要な流動資産が不足した場合に、当社に対して資金を提供すること等を約した純資産維持に関する契約を締結しております。

同社の当事業年度末における負債合計は193,154百万円（保険契約準備金181,604百万円を含む）であり、資産合計は228,916百万円であります。

なお、本契約は同社の債務支払いに関して保証を行うものではなく、また当事業年度末において、同社は純資産を一定水準に保っており、かつ流動資産の不足も発生しておりません。

5. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示したものを除く）

短期金銭債権	28,739 百万円
長期金銭債権	62,646 百万円
短期金銭債務	7,448 百万円
長期金銭債務	2,631 百万円

損益計算書に関する注記

1. 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引高の総額

営業取引（収入分）	17,604 百万円
営業取引（支出分）	43,656 百万円
営業取引以外の取引（収入分）	14,650 百万円

株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

（単位：株）

株式の種類	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
普通株式	15,033,588	977	—	15,034,565

（変動事由の概要）

普通株式の自己株式の増加数 977株は、単元未満株式の買取りであります。

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 of 主な原因別の内訳

繰延税金資産

関係会社株式評価損	7,043 百万円
減損損失	2,263
賞与引当金	2,049
固定資産評価損	1,250
たな卸資産評価損	723
退職給付引当金	423
その他	2,565
繰延税金資産小計	16,320
評価性引当額	△ 1,264
繰延税金資産合計	15,056

繰延税金負債

前払年金費用	△ 7,876 百万円
その他	△ 2,770
繰延税金負債合計	△ 10,647

繰延税金資産（負債）の純額 4,408 百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率 (調整)		30.5 %
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		△ 5.0
研究開発発税制		△ 0.8
法人住民税の均等割		0.7
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.1
その他		△ 0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率		25.5 %

リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、建物の一部については所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

関連当事者との取引に関する注記

1. 子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の 所有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	セコム ホームライフ(株) (注3)	-	資金貸付	貸付の実行	7,480	-	-
				(貸付の回収)	(4,955)		
				利息の受取(注2)	9		
				債権放棄(注3)	4,484		
子会社	セコム クレジット(株)	100.0%	資金貸付	貸付の実行	41,370	短期貸付金	1,800
				(貸付の回収)	(63,920)	長期貸付金	13,150
				利息の受取(注2)	98		
子会社	セコム医療 システム(株)	100.0%	資金貸付 役員の兼任	貸付の実行	8,340	短期貸付金	13,190
				(貸付の回収)	(12,494)	長期貸付金	25,464
子会社	(株)パスコ	72.1%	資金貸付	(貸付の回収)	(10,900)	-	-
				利息の受取(注2)	1		
子会社	(株)荒井商店	92.5%	資金貸付 役員の兼任	貸付の実行	5,650	短期貸付金	5,851
				(貸付の回収)	(6,264)	長期貸付金	7,772
子会社	(株)アット東京	50.8%	資金貸付 役員の兼任	(貸付の回収)	(4,000)	長期貸付金	8,200
				利息の受取(注2)	47		

(注) 1. 記載金額には消費税等が含まれておりません。

2. 資金貸付の金利については、市場金利等を参考にして決定しております。

3. セコムホームライフ(株) (現 あなぶきホームライフ(株)) の全株式を当事業年度に譲渡したため、同社は関連当事者に該当しないこととなりました。取引金額は譲渡時までの取引高を記載しております。債権放棄は、同社の株式譲渡に先立ち行ったものです。なお、債権放棄にあたり前事業年度までに計上した貸倒引当金1,960百万円を取り崩すとともに、関係会社債権放棄損2,524百万円を計上しております。

2. 役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称	議決権等の 被所有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社(当該会社の子会社を含む)	渡辺パイブ(株) (注2)	-	警備等の役務の提供 役員の兼任	機械警備及び保守 (注3)	30	未収契約料	0
						前受契約料	0

(注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 当社取締役 渡辺 元氏およびその近親者が議決権の過半数を所有している会社が、議決権の100%を直接保有しております。

3. 独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額	3,842円01銭
1 株当たり当期純利益	274円72銭